

## ●区社会福祉協議会の主な取組

緑区社会福祉協議会では「区域計画」の推進について、区役所及び地域ケアプラザと共に、全地区での地域課題の解決に向け様々な取組を行っています。平成28年度の取組の一部を紹介します。

### ボランティアセンター

#### ●「暮らしを豊かにするワンポイント講座」

ボランティアセンターには日常生活での困りごとの相談が寄せられます。「部屋のかたづけを手伝ってほしい」「庭木の手入れをしてほしい」など、暮らしの中でちょっとした手助けをしてほしいと願っている内容が少なくありません。そんな日々の生活上の頼みごとに応えられる人を見つけ、地域活動につなぐために生活支援ボランティア講座（全三回）を開催しました。

第一回目は、部屋だけでなく心もスッキリするための整理収納術を学ぶ。

第二回目は、「よく切れる包丁を使えば料理もきっと楽しくなる」という包丁研ぎのコツを学ぶ。

第三回目は、いざという時に火を使わずに調理できる簡単メニューを学ぶ。

延べ29名の参加者は、それぞれの講座を受講することで自身の暮らしを豊かにするとともに、身につけた知識や技術を活かして地域で活躍すべく、ボランティア登録をしてくださっています。



整理収納講座



包丁研ぎ講座



火を使わない簡単メニュー講座



### 福祉教育

#### ●私立森村学園のボランティア体験の活動コーディネート

長津田にある私立森村学園中等部2年生が、「地域の中にあるたすけあいの活動を学ぶ」をテーマに、夏休みに地域のボランティア団体の活動に参加しました。区社協で受入れ先を調整させていただき、高齢者会食会、配食ボランティア、ミニデイサービス、子育てサロン、地域リハビリ教室等、区内17か所の団体に、約100名の生徒さんの受入れのご協力をいただきました。



#### ●区内小中学校等からの福祉教育の相談に「緑ハートバリアフリー実行委員会」として対応



第1期地域福祉保健計画のモデル事業として始まり、現在も活動を続けている「緑ハートバリアフリー実行委員会」。(事務局：緑区社会福祉協議会) アイマスク体験や盲導犬の話、障がいのある方へ街の中で出会った時に、どういう接し方・声のかけ方が大切なのかを考えるための「3つの障がいの理解をすすめる寸劇」を行ったり、区内の小中学校等へ福祉教育・障がい理解をすすめる啓発活動を、年間20件ほど実施しました。

## 住民支え合いマップ

### ●「住民支え合いマップ」の取組

ご近所の見守りの仕組みづくりとして、「住民支え合いマップ」に取り組みました。「マップ」づくりとは、地図上に地域情報を落とし込み、解決すべき地域の課題や実状を誰の目にも見えるようにする取組みのことです。「マップ」は、住宅地図を50世帯程に区切り、そこに地域情報を書き込んだり、シールを貼るところから始まります。その情報は、ご近所に詳しい「世話焼きさん」に教えていただきます。「世話焼きさん」の情報をもとに、地域の方々の「動き」や「関わり」を「見える化」するのが、この「マップ」の特徴です。

今年度は、みどり台自治会（山下地区）、十日市場団地第2自治会（十日市場団地地区）、杉山原自治会（長津田地区）、下長津田自治会（長津田地区）の4か所で実施しました。「マップ」づくりを通じて、地域の方からは「気にかけていたようだけど、気がつけていない方がいることがわかった」「自分が知っている方に（地域内で）違ったつながりがあった」「地域はいろいろな方のおかげで見守られていることを知った」というように、新しい視点で地域の課題や実状がわかったという感想があげられました。

「住民支え合いマップ」の取組は、「マップ」づくりの過程で見えてきた課題解決に向けた行動を、地域住民の力、専門機関の協力で実践することを最終目的としています。今後さらに取組を進めていきます。



## 地区ボランティアセンター立ち上げ

### ●十日市場団地地区ボランティアセンターの開所

十日市場団地では、平成27年から身近な地域でのたすけあいの仕組みづくりとして、地区ボランティアセンターの準備会を立ち上げました。全戸アンケートを実施し、手伝ってもらいたいことはどんなことか、反対にお手伝いをお願いされたら何ができるかなど調べました。その後も検討を重ね、平成28年12月、十日市場団地地区ボランティアセンターが開所となり、登録してくれたボランティアさんが掃除やゴミ捨ての依頼などに対応しています。

地区ボランティアセンターで対応できるメニューはまだ少ないですが、こういった取組が常日頃からの見守りや、何かあった場合の気づきが住民全体に広がり、安心した地域づくりに繋がっていくと思います。また依頼者自身が気づいていない課題が見えてくることも期待され、地区ボランティアセンターの取り組みは住民同士で解決したり、行政・他機関につなげたりしながら、地域の福祉力を高めるものと期待しています。

